

4. 一次単価

⑤ 端数処理

a. 一次単価ファイルの端数処理設定を確認する(1)

一次単価ファイルの端数処理設定について説明します。

端数処理設定は、一次単価ファイルや標準単価ファイル毎に保存されます。端数処理の方法や有効桁等を確認したり、変更したりするときは、一次単価ファイルまたは、標準単価ファイルの端数処理画面で設定します。なお、端数処理設定をシステムファイルに記憶させると、以降に新規作成するファイルに端数処理設定を適用することができます。

端数処理設定

- ・ 端数処理設定は、一次単価ファイルや標準単価ファイル毎に保存されます。
- ・ 端数処理の方法や有効桁等を確認したり、変更したりするときは、一次単価ファイルまたは、標準単価ファイルの端数処理画面で設定します。
- ・ 端数処理設定をシステムファイルに記憶させると、以降に新規作成するファイルに適用することができます。

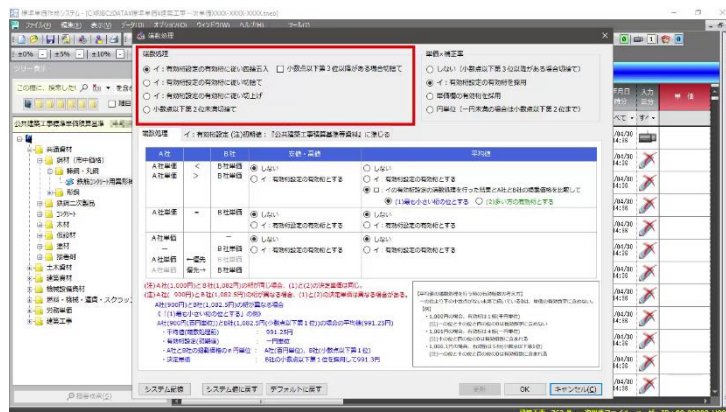
① 「ファイル」メニューをクリックします。



② 「端数処理」をクリックします。



表示された端数処理画面について説明します。画面左上の「端数処理」ボックスでは、単価欄などの端数処理設定を行います。



「単価×補正率」ボックスでは、一次単価ファイルの補正率欄の数値を使用して、横計算を行った際の端数処理を設定することができます。



画面中段のタブで画面を切り替えて設定を行います。

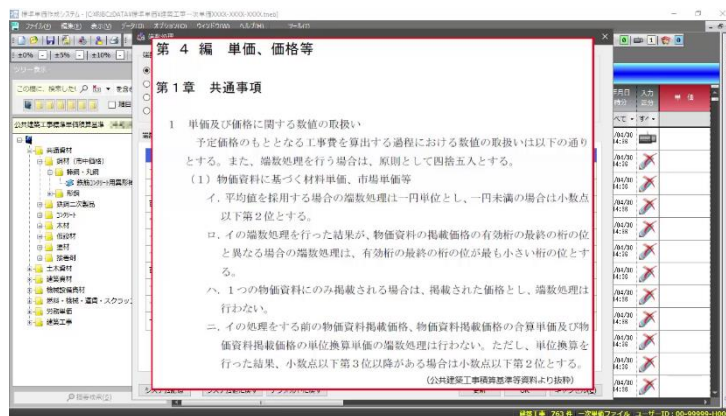
「端数処理」タブでは、各調査会より購入した材料単価データを読み込んだ際の比較方法を設定することができます。



「イ:有効桁設定(注) 初期値:『公共建築工事積算基準等資料』に準じる」タブでは、端数処理を行った際の有効桁数を設定することができます。



RIBC の端数処理のデフォルト値は、国土交通省公表の「公共建築工事積算基準等資料」の「単価及び価格における数値の取り扱い」の内容を設定しています。



- ③ ここではデフォルト設定のまま作業をします。
キャンセル(C) をクリックします。

